

# 長崎北病院 伝言板 3月号

令和5年3月1日発行

弥生（やよい）3月。花月、花見月の別名もあるように花の月到来。日の出は早く日没は遅くなり明るくなりました。「光の春」です。光に反応して鳥は囀り（さえずり）雪解けは進む。「音の春」。そして暖かくなり桜の蕾が膨らむ「気温の春」。ついでに花粉症「鼻の春」。五感で春を感じましょう。



## 「できません」とは言わない

3月。年度末。この時期には、当院に来る人がいれば去る人がいる。新人には自分の仕事、仕事場を好きになって欲しい。この仕事は自分に合っているのか、出来るのか。心配もある、迷うかもしれない。しかし、自分が選んだ道。目の前の仕事、今の仕事をひたむきにやってみてほしい。出来るようになる、自信がつく、そして好きになっている。皆で待っています、Welcome！ 当院から去っていく人もいます。定年や家族の都合、転職もある。新しい道。次の場所で輝いてほしい。当院で働いたことが少しでも役に立つように良い記憶であることを祈ります。Good Luck！



梅、桃、桜。菜の花。百花咲き乱れる春。別世界のような美しい桜の写真。憧れますが悲しいかなセンスの無さ、絵心の無さ。私の写真はフィルム（今はデジカメですが）の無駄レベルです。実は写真好きというよりカメラ、レンズ好き。昔から「覗くもの」系が大好き。望遠鏡、顕微鏡（電子顕微鏡も経験しました）、カメラ。（いわゆる犯罪の「のぞき」はやったことはありませんので誤解なきように）。レンズのガラスを見ていると吸い込まれそうです。

シャッターの音は至福（病気で笑）。ニコン、キャノン、オリンパスなど日本のカメラは有名です。しかし、設計者の名前は出ません。例外的に有名なのが「米谷 美久（まいたによしひさ）」氏です。オリンパス光学工業株式会社に入社し、1959年、入社3年目に「オリンパスペン」を設計、開発。「ペンシリーズ」をはじめ世界のカメラ史に名を残すカメラを次々に設計した伝説的天才です。入社3年目、初任給が15000円、一番安いカメラが23000円、ライカは24万円の時代。新人の研修用にと無理を承知で初任給の半分以上の6000円でカメラを作れと命じられた。「できません」「無理です」と言っていたら先はなかった。「やってみます」。すぐに取り掛かった。当然大きな壁があった。まずは見える壁「技術の壁」。6000円でも24万円のライカと同じ画質の写真を撮るためにレンズは高級品を採用。すると6000円から残りは少し。今までの方法では無理。材料、工法。ゼロから見直す。知恵を絞り試行錯誤した。完成。見える壁は自分の努力で越えられる。そのために「好きこそものの上手なれ」「150パーセントの力を発揮すれば、必ず先を行くことができる」と語っています。もう一つは見えない壁「常識の壁」。試作品ができた時「そんなオモチャは俺達は作らん!」と工場長。「操作が簡単なカメラは売れない!」「女性はカメラは買わない!」と営業。常識の壁。結局、自社の工場で作ってもらえず外注で作って未曾有の大ヒット！月に300台売ればヒットの時代に5000台作っても足りず。「ペンEE」を買ったのは33%が女性だったそうです（それまでは2%）。周囲の反対にもかかわらず発売を決断した会社のトップも慧眼。



新しいことを目指せば必ず壁がある。抵抗がある。「できない」と言えばそれまで。壁を越えないと進歩はない。まず始める、やってみる。まだ見ぬ先を目指す。研究、努力、実績そして説得。越えていく。（「無理」というのが楽…）(A.S.)